

富山大学理学部後援会報

りっか

第20号 2025.3



理学部からのお知らせ

2024年4月より理学部5学科から学科の垣根を取り払い、理学部理学科6プログラムへと再編しました。2年次からは、数学、数理情報学、物理学、化学、生物科学、自然環境科学の6プログラムに分かれ、専門分野をさらに深く学ぶと同時に、併設された国際コースとともに、プログラムを横断した理学の知識を幅広く学ぶことが出来るようになりました。3ページには、理学部長と第1期生との対談も掲載しております。富山大学理学部ならびに「りっか」をよろしくお願ひします。

理学部HP



後援会報の名称「りっか」とは…

「りっか」とは、雪の異称であり、漢字では六花と書きます。六角形の結晶の麗姿を花にたとえています。私たちの理学部章は雪の結晶がモチーフとなっており、新理学部への象徴として引き継がれています。

ごあいさつ

理学部後援会会長 城村 篤志

早春の候、後援会会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

今般、理学部会報「りっか第20号」を発行することが出来ましたのも、ひとえに皆様の後援会活動へのご理解、ご支援の賜物と感謝申し上げます。

数年前より世界的なインフレの波が暮らしに影響を及ぼし、身近な生活環境にも大きな変化が見られています。昨年も食品やエネルギー、日用品の価格高騰が顕著であり、体感としても、暮らしの変化を感じることができません。

一方で、労働市場では業種によって差異があるものの、新卒初任給引き上げが盛んに行われています。企業が労働環境の改善により人材確保を推進し、競争力の向上に取り組んでいることがうかがえます。

学生の皆さんにおかれましては、学業を通じて得られる専門知識、課外活動などで得られる経験を通じて、適正を見いだし、目標を掲げて日々研鑽を積まれること、また社会の変化に柔軟に対処する能力がよりいっそう求められています。

後援会といたしましても、より良い教育環境の整備に向け、学部長をはじめ大学関係者の皆様と連携し支援していきたいと考えています。会員の皆様におかれましては、引き続き理学部後援会にご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。



保護者の皆さまへ

理学部長 松田 恒平

理学部後援会会員の皆様、理学部の学部教育を支えていただき誠にありがとうございます。理学部教職員を代表して心より感謝申し上げます。皆様へりっか20号をお届けいたします。理学部は改組して1年が経とうとしています。改組後に受け入れた1年生に向けて、理学科生として1年間

を広く理学の様々な分野に興味を抱いて学ぶよう新入生オリエンテーションの際に呼びかけました。先日、今号のりっか編集のために1年生と懇談させていただきました。約1年間の大学活動を聞いたところ、志望しているプログラム以外の分野の種々の授業も履修することが出来、有意義な1年を過ごしてきた旨の感想を笑顔で話してくれました。いよいよ来年度よりプログラム所属となりますが、ほとんどの学生が希望したプログラムに所属できるよう最大限努力いたします。また、プログラム配属後も責任を持って専門教育を施す所存です。1年生の会員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。2年生以降の学生は、引き続き改組前のカリキュラムでの授業の履修となりますが、改組前後で見劣りする科目などはありません。引き続き、理学の諸分野に関わる専門教育を施しますので、2年生以降の会員の皆様、どうぞご安心ください。さて、今号のりっかでは掲載記事として理学部の学部生を主体とした記事構成といたしました。特に理学部での我が子の勉学に励む姿、学部学生が多数参加して主体的に取り組んだサイエンスフェスティバルの様子や研究活動などでの活躍りが会員の皆様にかかるよう工夫いたしました。理学部における教育研究活動の一端が皆様に伝わりましたら幸いです。社会問題としてメディアで度々報じられている大学運営費交付金の削減による教育活動への圧迫を常々危惧しております。一方、理学部後援会より毎年各学科/プログラムへご寄付を賜っており、支障のない理学部教育を施すことができますこと、後援会のご高配に心よりお礼を申し上げます。今後とも引き続き、後援会のご支援とご協力を仰ぎたく、どうぞよろしくお願いいたします。

令和7年度 キャンパススケジュール CAMPUS SCHEDULE

4	○ 入学式 ○ 新入生 オリエンテーション ◆ 新入生保護者懇談会 ○ 授業開始(前期・第1ターム)
5	
6	○ 第3年次編入学試験 ○ 授業開始(第2ターム) ◆ 北陸地区 国立大学体育大会 ◆ 後援会理事会・総会
7	
8	○ 期末試験・集中講義 ◆ オープンキャンパス ○ 夏季休業～9月 ○ 大学院入学試験
9	○ 国際コース海外研修 ◆ サイエンス フェスティバル
10	○ 授業開始 (後期・第3ターム) ◆ 開学記念日 ◆ 大学祭 ◆ 北陸三県大学 学生交歓芸術祭 ○ 総合型選抜 ◆ 就職・進学合同説明会
11	○ 社会人選抜・帰国生徒選抜
12	○ 授業開始(第4ターム) ○ 冬季休業～1月
1	○ 授業再開 ○ 大学入学共通テスト
2	○ 期末試験・集中講義 ○ 卒業論文発表会 ○ 春季休業～3月 ○ 一般選抜(前期日程)、私費外国人留学生選抜
3	○ 一般選抜(後期日程) ○ 学位記授与式

理学部理学科フィールド・オブ・ドリームズ

2024年4月富山大学理学部は、理学部理学科6プログラムに生まれ変わりました。理学部長と新生に新しい理学部の教育や学生生活について語っていただきました。

理学部での大学生活はいかがですか？

西田 僕は大学外でイベントを開催するなど、いろいろな活動をやっています。そのおかげで行動範囲が広がって、一気に世界が開けました。自分で考えて行動するので自己責任も伴いますが、想像していたより自由な生活を楽しんでいます。初めての一人暮らしも新鮮で楽しいです。生活面では、僕は意外に料理好きだということに気付いて、結構自炊をしています。

中田 大学生活はもっと暇なものかと想像していたんですが、理系ということもあって結構忙しい毎日です。でもその分、自分の好きな理科を学べるので、楽しく一年間を過ごしました。僕は弟が二人いて家事も以前から手伝っていたので、すんなり一人暮らしに慣れた感じです。富山でも雪の多い地方の出身なので、雪にも慣れています。雪が降るとうれしくらいです。

一人暮らしは自由な反面、不安なこともあると思いますが。

西田 まだ経験はしていないんですが、体調が悪くなった時のことを考えるとちょっと心配です。

中田 能登半島地震もあったので、地震が起きた時が不安です。

理学部長 健康管理は本当に大切です。体調が悪い時は病院に行ったり、大学の保健管理センターを利用したりしてくださいね。防災については、自分の身を守るために避難場所を確認したり、防災グッズを用意したりすることが必要な時代だと思います。

西田君は物理学プログラム、中田君は生物科学プログラムに進むとのことですが、どんな理由でそのプログラムを希望しましたか？

西田 高校の授業で、観測者の意思の介入によって電子の状態が変わるという話を聞いて「面白い!」と思い、そこから物理が好きになりました。将来は、電子に関する現象を研究したいです。

中田 僕は元々医学に興味があって、医学に通じることを学びたいと思い、このプログラムを選びました。実は高校では化学と物理を履修したため、生物を学んでこなかったんです。それが2024年から、理学部では学科の垣根がなくなり、理学科として数学、数理情報学、物理学、化学、生物科学、自然環境科学の6プログラムに再編されました。そのおかげで生物を学ぶことができます。この利点を生かし、将来は理学を基礎とした医学に関する研究室で、研究をしたいと思っています。

一年次はプログラムを横断した幅広い理学の知識を学んだと思いますが、いかがでしたか？

西田 僕は物理が大好きなので、こういう形で理学科が一つにまとまっていなかったら、生物や化学はほとんど勉強しなかったと思います。そういう意味では、自分の知らない分野の話が聞けて面白かったです。物理の授業では、初めて実験をやるととても楽しかったですし、数理情報もパソコンを使う授業がとても面白かったです。

中田 僕は高校数学で線形代数をやったことがなかったので、ちょっと難しかったですね。苦労もしましたが、反対に面白さにも気付きました。生物の実験モデルを考えるという授業では、いろいろなことへの配慮がまだ未熟だということに気付いて、これからもっと知識を深めたいと思いました。

将来の夢は？

西田 僕は個人でイベントを開催したり、チラシやVTuberのサムネイルをボランティアで作ったりしています。その経験を生かして、イベントやデザインに関連する仕事をしたいと思っています。

中田 僕は中学の理科の教員を目指しています。

理学部長 最近は教職を目指す学生が減っているので、うれしいですね。理科というカテゴリーは、分野が広いので大変だと思いますが、志があればきっとクリアできます。西田さんの目指している職業も、これから期待できそうな分野ですね。お二人とも、夢に向かって頑張ってください。



にしだ かいと
西田 海斗さん
理学科1年生 (三重県出身)



なかだ けいご
中田 慧吾さん
理学科1年生 (富山県出身)

大学での生活や研究の体験で得たこと

理学部では、さまざまな演習や実験、研究が行われています。それぞれの研究室やゼミで、さまざまな発見や、アクシデントに出会いながらも、充実した研究ライフを送っている学生たち。

数学科、物理学科、化学科、生物学科、生物圏環境科学科の皆さんに、日々の研究の中で印象に残った体験や、これからの進路と将来の夢についてお話を聞きました。



——研究内容について教えてください。

私は3年生なので、まだゼミには本配属されていないのですが、プレゼミという形で研究をしています。プレゼミでは、トポロジー幾何学という分野の勉強をしています。学生が順番に発表していき、分からないところを皆で潰していくという方式です。

——研究で大変だったこと、うれしかったことは？

発表は難易度にもよりますが、45分かかる時もあれば、90分ぐらいかかる時もあり、結構体力を使います。また、教科書や参考書を1回読んだだけでは、分からないことが多いので大変です。分からないところは、先生のお力を借りながら、みんなで意見を出し合って解決策を見つけていきます。プレゼミを通して、いろいろな問題に対するアプローチ方法を常に考えるようになりました。大変なことも多いですが、それまで分からなかったことが分かった瞬間は、とても楽しく達成感があります。

——プレゼミの半年で変わったことは？

これまでは受け身での授業が大半だったので、今から思えば完全に理解していない箇所もありました。この半年で理解できていなかったことが、分かるようになってきたのを実感しています。またプレゼミを通して、誰かに言葉で伝える技術を学ぶことができました。

——これからの進路と将来の夢は？



数学科
3年生
き なみ あや
木南 彩さん

プレゼミがとても楽しいので、4年生では今のゼミにそのまま進もうかと考えています。今は狭い範囲を学んでいるので、今後はもう少し広い範囲でトポロジーを学んでいきたいと思っています。

——研究内容について教えてください。

重力波望遠鏡「KAGRA(かぐら)」に使われている鏡の反射膜について、研究しています。KAGRAの重力波検出の感度を向上させるためには、機械的散逸が小さく熱雑音を抑制できる反射膜が必要で、その素材の研究です。

——研究のモチベーションは？

指導教員にお願いして、世界中の研究者が参加するオンラインミーティングに参加しています。研究内容を英語で発表することもあり、自分の未熟な部分が見つかった時には悔しい気持ちになりますが、それが今後のやる気にもつながっています。研究を通して、一大プロジェクトに携わっているという実感があり、これが研究へのモチベーションになっています。

——この研究をしようと思ったきっかけは？

3年生の時「サイエンスフェスティバル」で、KAGRAに使用されている「マイケルソン干渉計」の紹介をしました。その時に、「こんなすごい装置があるんだ」と驚き、KAGRAに関わる研究をしたいと思います。

——研究室の雰囲気は？

半分くらいのメンバーがKAGRAの研究をしているので、研究成果について情報交換ができます。それに修士の先輩方は優秀でフレンドリーなので、質問もしやすくいつも頼りにしています。

——これからの進路と将来の夢は？

大学院でもこの研究を続ける予定です。卒業後は、高校の物理の先生になり、生徒のことを成長させられる先生になりたいと思っています。



物理学科
4年生
わたなべ りくと
渡辺 陸斗さん

——研究内容について教えてください。

機能性 RNA の機能を向上させていくという研究の一環として、「環状一本鎖 DNA」を特殊な酵素を用いらずに作れないかという研究をしています。進化分子の幅を広げるといのが、僕の研究の最終ゴールです。

——研究で大変だったこと、うれしかったことは？

生物の実験にはとても時間がかかるのが、大変な点です。実験のために遅くまで残ることもよくあります。それでも欲しいデータが取れた時には、とてもうれしいです。

——研究室を選んだきっかけは？

高校の時は生物と化学を履修していて、生物がとても好きでした。今は化学科ですが、化学と生物が重なる領域に触れられるということで、この研究室を選びました。

——研究室の雰囲気は？

学生同士のつながりがとても強い研究室です。先輩にいろいろ教えていただいたり、同級生同士でも自分のやっていない分野のことを教えあったりしています。もちろん先生もディスカッションを通して、とても丁寧に教えてくださいます。いろいろな面で、人に助けられて研究できているのを感じます。

——これからの進路と将来の夢は？

春から大学院に進学し、「医薬理工学環」に所属することが決まりました。理学から薬に少し分野が移ったようなところですが。



化学科
4年生
いしはら たくみ
石原 巧海さん

将来は生体分子について学んだことを生かし、製薬企業で研究開発をしたいと思っています。

——研究内容について教えてください。

ハチやハエなど、花粉を飛ばす送粉者がどのように色を見ているかという研究をしています。可視光領域を表すために一般的に使われている反射スペクトルを使わずに、写真データを使ってモデルを作成するという新しい手法の開発です。写真データを使うことによって、小さい面積でも測定ができたり、屋外に装置を持ち運ばなくても測定できたりというメリットがあります。

——研究で大変だったこと、うれしかったことは？

朝がとても早いのが大変です。早い時は4時に起床して山に入ります。山での採集を終えてから測定するので、帰宅は夜中になることもありました。それでも、山が好きなので頑張れます。

また、人工の色を使った実験でいい結果が出たので、今後の工夫次第で自然の色でも再現度の高い結果が出るの

——研究内容について教えてください。

宇宙の微小重力環境が植物の形態に与える影響について、調査しています。国際宇宙ステーションで生育したヒメツリガネゴケを X 線 CT で撮影し、3D モデルを作成します。そのデータを元に、3 次元的な器官レベルでの形態の変化を研究しています。

——研究で大変だったこと、うれしかったことは？

研究を始めたばかりの頃は、3D モデル作成に使用する機械学習がうまくいかず、改善や手法の検討が大変でした。反対にうれしかったのは、3D モデルが完成した時です。小さなコケが 3D モデル化によって、細部まで可視化できるようになった時には感動しました。

——研究室を選んだきっかけは？

宇宙にロマンを感じたことと、高校生の時に学んだ植物の環境応答についてもっと勉強したいと思ったことから、この研究室に入りました。動物と違って育った環境から動けない植物が持つ適応力には、とても興味があります。

——これからの進路と将来の夢は？

大学院でこの研究を続けます。卒業後は、研究室で学んだ機械学習の知識を生かして、IT 系企業への就職を考えています。そのほかにも、植物の品種改良に関わる研究開発ができる食品会社への就職も考えています。

——富山大学での生活はどうか？

立山の植物を観察するという実習が毎年あるのですが、これがとても楽しかったです。自然豊かな富山での生活の中でも、立山の自然にふれ合えたことが一番印象に残っています。



生物学科
4年生
たばた けいすけ
田端 桂介さん

では？ という期待が持てたことがうれしかったです。

——研究室を選んだきっかけは？

昔から数学が好きで、自然も好きでした。色の RGB 値の計測などで数学が必要なこと、花の採集で山にも行けることから、この研究室を選びました。

——これからの進路と将来の夢は？

研究室で学んだ気象や、高山植物の知識を生かし、山岳遭難救助隊への配属を目指しています。富山大学では、ワンダーフォーゲル部の部長として毎週のように山に登っていました。後輩にも先輩にも恵まれて、自然豊かな富山でたくさんの経験をさせてもらったことに感謝しています。



生物圏環境科学科
4年生
たけだ けんさく
武田 健作さん

学生による学生のための 研究者レポート

—理学部の若き研究者たちの最新情報を公開—

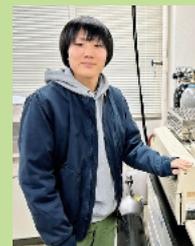
理学部の学生は、どんな研究をしているのでしょうか？
ここでは、学生が先輩たちに研究内容をインタビューし、
その内容を分かりやすく紹介した記事を掲載します。

インタビュー × 峯村 友都

神谷 海知／齊藤 千晴
塩原 颯人／山澤 泰

File #031 ▶

峯村 友都 (みねむら ゆうと)
大学院 理工学教育部 博士課程
地球生命環境科学専攻 2年生
(富山大学 SPRING スカラシップ 研究学生)
出身地：長野市
趣味：登山、植物を育てること、写真撮影



ライチョウ LOVE

■ ライチョウとは

富山でお馴染みの鳥「ライチョウ」。国の特別天然記念物にも指定されている希少動物である。高山帯に属する立山は日本で最もライチョウの生息密度が高く、注目すべき特殊な環境といえる。絶滅危惧 I B 類であるライチョウは保全の必要性が高い動物だが、その生態は未解明な部分も多い。そんなライチョウの生態に迫るため、峯村さんは高山の生態系を扱う和田直也教授の研究室に所属し、ライチョウを取り巻く環境について調べている。

立山のライチョウ



峯村さん撮影

■ 研究内容

残雪に覆われる春の立山で、ライチョウは繁殖期に必要な栄養をどのように獲得しているのか？

ライチョウは植物を主食とする一方、アブラムシなどの節足動物も食することがある。特に雪が多く残る産卵期前には、節足動物を好んで食することが知られている。これによって、ライチョウは産卵に必要な栄養を獲得しているのではないかと、峯村さんは考えた。

そこで、産卵期を含む春から夏にかけて峯村さんは立山のライチョウの生息場所に通り、雪上でみられる節足動物を地道に採取し、その種類や量からライチョウの繁殖との関係を調査した。その結果、節足動物量はライチョウの産卵開始時期に特に多くなるという季節変動が明らかになった。

次に、これらの節足動物がどこから来たのかを調べた。採取された節足動物の生態から、それらが周囲の山地帯から上昇気流に乗って移入してきていると考えられた。

このようにして、高山帯の外から供給される豊富な節足動物が、ライチョウの産卵開始を決める要因のひとつになっているという仮説を峯村さんは証明しようとしている。博士課

程に進学した現在は、ライチョウの糞の DNA 分析を行い、実際にどのような節足動物をどのくらい食べているかを調べている。今後の研究によって、ライチョウの保全に役立つ興味深い知見が増えることが楽しみだ。

峯村さんに研究生生活について質問してみました。

Q：博士課程にどうして進んだのですか？

ライチョウの研究をしたいと思って研究室を探しているときに、和田先生に「ライチョウの餌資源の研究ができるよ」と言われたことがきっかけで始めたのですが、修士課程まででは納得いくまでやり遂げることができず、「自分の研究を一区切りつくまでは続けたい」と、博士課程に進みました。

Q：研究をやっていて面白いこと、辛いことはありますか？

研究室でドローンを使って調査をするのですが、自分自身で使いこなせたときや GIS (地理情報システム) の使い方のテクニックを学べたときはとても楽しいですね。学んだことを実際に使えるのは研究の醍醐味です。また、その調査で得た情報が世界中で自分しか知らないという状況も楽しいです。そのほかにも、後輩に技術指導できた時は、これまでの頑張りを実感できる瞬間です。

つらいことは、野外調査のサンプル処理など、時間に追われる作業が大変です。また、立山での調査は何回もできるわけではないので 1 回 1 回の調査がプレッシャーです。しんどいことがあってやる気がなくなったときは、セブンイレブンでコーヒーを買って神通川の河川敷で疲れをいやしています。

野外調査で節足動物を探す峯村さん

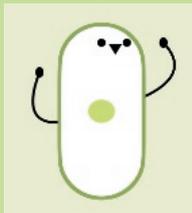


峯村さん提供

齊藤 佑風 / 井上 遥斗
小林 智輝 / 増田 碧斗

File #032 ▶

山田 瑞樹 (やまだ みずき)
大学院 理工学研究科 修士課程
地球生命環境科学プログラム 2年生
出身地：富山県高岡市
好きな食べ物：リンゴ
趣味：ゲーム、イラスト制作



培養細胞をモチーフに描いた山田さんのイラスト

宇宙で育つ植物学

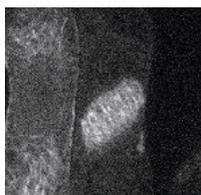
地球以外の惑星への移住や宇宙旅行が現実的になりつつある。しかしながら、宇宙環境が生物に与える影響には、まだまだ不明な点が多い。

山田さんが所属する玉置大介講師の研究室では、「無重力・微小重力空間で植物がどのような影響を受けるのか」についてJAXAとの共同研究プロジェクト「Plant Cell Division」に取り組んでいる。山田さんはこのプロジェクトに関連した研究として、タバコの細胞を用いて、微小重力の環境や、逆に重力が強くなる過重力の環境での、細胞分裂について調べている。

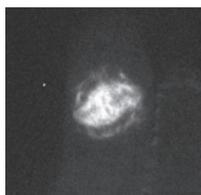
■ 宇宙空間での植物細胞の変化

タバコの培養細胞は他の植物よりも観察がしやすく、細胞分裂に関する分子を蛍光タンパク質で光らせるなどの操作がしやすいという利点がある。この利点により、近年多くの植物研究に用いられている。

山田さんは、細胞分裂の過程で形成される「紡錘体」と「フラグモプラスト」という構造が、過重力環境下でどう変わるかについて調べている。重力が地球の100倍の環境(100G)を再現して細胞を観察したところ、紡錘体は通常よりも大きく傾いている一方で、その後には作られるフラグモプラストにはそのような傾きは見られなかった。この現象から、過重力下で起きた紡錘体の傾きが、フラグモプラストが作られる過程で修正される仕組みがあると考えた。



左) 傾いた紡錘体
※山田さん提供



右) フラグモプラスト

山田さんは、この修正の仕組みにアクチンというタンパク質からできた繊維状の構造体である「アクチンフィラメン

ト」が関わっているという仮説を立て、アクチンフィラメンの形成を阻害した細胞を使って過重力環境下で観察した。その結果、仮説通りアクチンフィラメントは傾きの修正に関わっていたものの、アクチンフィラメント以外の因子の関与が推測された。

■ 研究のきっかけ

山田さんは元々植物の研究に興味があり、玉置講師の研究室を訪問した。その際、趣味でイラストを描いていることを知った玉置講師から、「Plant Cell Division」のシンボルマークの制作を依頼された。山田さんは快諾し、イラストを制作した(右図)。この出来事が縁で、山田さんは玉置研究室で研究に取り組むようになった。



■ 研究の面白さ

この研究を通して、生命活動に欠かせない「細胞分裂」と「宇宙」との関わりを解明していくことができる。それは、将来的に宇宙で植物を実際に育て、そこで人間が生活していくための第一歩となる。山田さんは、「私の研究が直接的ではなくとも私たちの将来の生活に関係すると考えると胸が踊る」と語る。

研究に携わる中でJAXAに直接出向くこともあるそうだ。その際、研究施設内で宇宙実験に向けた条件検討の試験を行ったり、宇宙で実際に植物を使って実験を行うミッションについて宇宙飛行士に説明したりする機会もあったという。こういった貴重な経験ができることも、研究の面白さの一つだと話してくれた。

■ 後輩へのメッセージ

山田さんは、「『この研究室のこの研究がどうしてもしたいんだ』、みたいな熱量が必ずしも必要なわけではなくて、実際やってみて興味を持ったことに1つずつ手をつけていくのでも、十分楽しい研究ができるかなと思うので。楽しめるのが1番かな」と話す。

理系の学生はそのまま大学院に進学する道もあれば、他の大学に編入し新しい研究を始める道もある。実際に大学に進学し、いろいろな研究室の雰囲気や研究内容を見て、自分なりの答えを見つけることがもっとも大切なことだと、山田さんは語る。

これらの研究紹介記事は以下の授業で作成したものです。

【科学コミュニケーションII】

主 講 師：元村有希子(同志社大学生命医科学部特別客員教授)

担当教員：川部達哉(数学プログラム)、島田 互(自然環境科学プログラム)

令和6年度 理学部後援会予算

収入の部

(R6.4.1～R7.3.31)

費目	金額(円)	摘要
繰越金	894,053	
後援会費	3,360,000	・R6入学生入会予想率 75% ・過年度入学生入会者
預金利息	17	
合計	4,254,070	

支出の部

費目	金額(円)	摘要
事業費	3,159,000	保護者への案内・通信 100,000
		学習・実験設備等充実費 2,250,000
		サイエンスフェスティバル支援 50,000
		学生表彰 156,000
		TOEIC試験受験支援 50,000
		印刷費(会報) 350,000
		海外科学英語研修支援 180,000
		サイエンスメディアーター記念品代 5,000
		新入生交流会支援 18,000
		事務費
会議費	25,000	理事会・総会
人件費	200,000	
予備費	820,070	
合計	4,254,070	

令和6年度 理学部後援会予算収支中間決算報告

収入の部

(R6.4.1～R7.1.31)

費目	金額(円)	摘要
繰越金	894,053	
後援会費	3,490,000	R6入生他
預金利息	162	
合計	4,384,215	

支出の部

費目	金額(円)	摘要
事業費	2,560,809	保護者への案内・通信 98,794
		新入生交流会助成 18,085
		学習・実験設備等充実費 2,250,000
		サイエンスフェスティバル支援 65,000
		学生表彰 60,000
		印刷費(封筒) 28,930
海外科学英語研修支援 40,000		
事務費	46,390	事務用消耗品類 14,536 後援会費振込手数料負担分 31,854
会議費	30,448	理事会・総会 30,448
人件費	180,100	事務員手当 180,100
予備費	1,566,468	次年度繰越金 1,566,468
合計	4,384,215	

◆理学部後援会への入会のお願について

理学部後援会は、保護者と理学部との連絡を密にし、「学生の教育活動及び就職活動等の支援」を目的に設立され、多くの支援を行ってきました。

保護者の皆様におかれましては、後援会設置の趣旨をご理解をいただき、是非ともご入会いただきますようお願いいたします。

会費：学部学生(20,000円)、編入学生(10,000円)(いずれも入会時のみ。)

令和6年度 理学部後援会役員

会長	城村 篤志 (4年理事兼任)
副会長	堀田 貴子 (3年理事兼任)
副会長	柘植 清志 (教員理事兼任：化学プログラム教授)
理事	松田 恒平 (理学部長)
理事	保護者 各学年2名 (計8名)
理事	教員 各学科1名 (計5名)
理事	賛助会員 2名
監事	温井 智子 (正会員)
監事	秋山 正和 (数理情報学プログラム准教授)

令和6年度卒業予定者の進学・求職・就職状況

	男	女	合計
① 卒業予定者数	130	29	159
② ①のうち進学者数	79	16	95
③ 進学率【②/①(%)】	60.8%	55.2%	59.7%
④ ①のうち求職者数	51	13	64
⑤ ④のうち就職内定者数	43	12	55
⑤のうち富山県内	11	3	14
⑤のうち富山県外	32	9	41
⑥ 内定率【⑤/④(%)】	84.3%	92.3%	85.9%

令和7年2月27日時点調査

令和6年度理学部学生表彰

表彰の基準は、「特に成績の優れた者」です。
学長表彰者として2名、学部長表彰者として15名が選ばれています。

◇ 学長表彰

化学科

石原 巧海

生物圏環境科学科

内藤 翼

◇ 学部長表彰

数学科

仲田 崇人

八田 悠希

高橋 萌々

物理学科

三浦 優悟

宇佐美 昂成

渡辺 陸斗

化学科

高橋 知裕

上田 麻央

水田 智也

生物学科

所 陸斗

齋藤 真之介

宮沢 紗李奈

生物圏環境科学科

永井 椋太

白石 悠貴

山沢 光輝

編集後記 2月に入り北陸地方は毎日のように雪が降り続いています。地球温暖化の影響により夏の酷暑は理解出来ると思いますが、なぜ、大雪?と思われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか? 不思議だと思いませんか? 私たち理学系は、日々、そのような自然界の「なぜ・なに」を追い求めて教育・研究を行っています。昨年4月から理学部理学科6プログラムとして新入生が入ってきました。名前を変えただけでなく中身も伴うような学部になるように教職員一同、学生をお迎えしております。この学部で何を学び、この混乱を極めた社会へどのように旅立つのでしょうか。不安と楽しみが混在しますが、今後とも、理学部ならびに後援会へのご理解ご協力のほど、よろしくお願い致します。(理学部広報委員長・青木一真)

富山大学理学部後援会

〒930-8555 富山市五福3190

TEL 076-411-4803

FAX 076-445-6549

http://www3.u-toyama.ac.jp/safs/

e-mail safs@sci.u-toyama.ac.jp

